

茨城県技術士会



会 報

第 25 号

2010 年 7 月

URL: <http://www.ipea.jp>E-mail: info@ipea.jp

目次	・茨城県技術士会 新会長就任	1
	・第 13 回定時総会 会長挨拶、来賓挨拶	2
	・総会報告、講演会の内容 (1)	3
	・講演会の内容 (2) (3)	4
	・交流会、活躍する技術士	5
	・新入会員紹介、合格者歓迎研修会・祝賀会 ゴルフ大会、編集後記	6

茨城県技術士会 新会長就任

会長新任挨拶 (社) 日本技術士会 提携 茨城県技術士会 本田 永信

このたび茨城県技術士会会長を務めることになりました本田です。
茨城県技術士会は平成 10 年の設立から 12 年間にわたり阪本前会長の強いリーダーシップのもと大きく成長してきました。その功績に深く感謝申し上げます。

デフレが継続し閉塞感たどるような経済状況ですが、引き続き、会員一人ひとりがその専門性を発揮し、生き生きと地域に貢献していく存在感ある技術士会を目指していきたいと考えております。

特に、① 県及び関連機関と連携を密にして中小企業、地域の活性化に貢献、② 技術士の専門性、職業倫理を活かせる技術士会としての地域のハブ機能充実、③ 日本技術士会と連携した地域組織のありかたの検討、等に注力してまいります。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



本田 新会長

会長退任挨拶 (社) 日本技術士会 提携 茨城県技術士会 阪本 三郎

会員の皆様、理事の献身的な支援に支えられ、茨城県技術士会発足から今日まで 12 年間会長を勤めさせていただきました。ご協力に心より御礼申し上げます。

発足時には関係者に一人ひとり電話での勧誘により何とか組織化し、会員のためにはプロジェクト活動を強力に支援して参りました。このプロジェクト活動は初期の予定した成果を得たものと考えています。節目としての 10 周年記念行事も成功裡に納めることが出来ました。そして更なる飛躍を目指し、中小企業活性化支援センターを設立し、その活動が開始されたところです。

理事会のメンバーはかなり若返った構成になってきました。旧態にとらわれず、新たな発想で革新的な事業展開していくことが期待されます。

さて、この間感じたことは、会員の個人技術ポテンシャルがきわめて高いことでした。これに経営力が付加されれば間違いなく中小企業者の力強いパートナーとなれることでしょう。会員の皆さん、どうか中小企業者と泥まみれ、命がけで課題解決に取り組んでみて下さい、そうすれば結果として自身の経営力が向上することと思います。また課題を一人で解決できないなら仲間の知恵を活用させてもらうことも大事です。

最後に、更なる技術士の相互の研鑽、中小企業者への支援、国・県他自治体、及び金融機関等の施策への積極参加を通して県民経済の発展にご尽力いただくことを切にお願い致しまして、退任の挨拶とします。お世話になりました。



阪本 前会長

(社)日本技術士会 提携 茨城県技術士会 第13回定時総会
平成22年6月5日 於:ワークプラザ勝田大会議室

開会挨拶 (社)日本技術士会 提携 茨城県技術士会会長 阪本 三郎

会員の皆様には本会活動に対しご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。また、ご来賓の皆様には、日ごろから茨城県技術士会の活動に対し暖かいご支援を頂き深謝申し上げます。本日は、ご多忙のところを第13回定時総会にご出席いただきましたことを御礼申し上げます。

茨城県技術士会は、発足以来10年間、プロジェクト活動をわれわれの活動の中心に据えて、会員相互の研鑽と中小企業者への支援業務の斡旋を展開してまいりました。加えて、創立10周年以降は、中小企業活性化支援センターを設立し、その活動の範囲を広げてまいりました。

会員相互の研鑽と中小企業者への支援業務斡旋という観点から見れば、それなりの成果はあったといえるのでしょうか？答えは“No”であります。

瀕死の中小企業者と正面から対決し、その依頼に十分に応えるには、現状の“技術士個々の専門技術”だけでは彼らの要求には応えきれないのであります。“技術士個々の専門技術”だけではなく、財務、人事・労務、経営戦略、等々を、単独の技術に加えて、命がけで取り組まなければなりません。そうして初めて、技術士が中小企業者にとって不可欠なものとなり、真の意味でのパートナーになり得るものと確信いたします。

今回総会では、このような趣旨から活動計画、実行予算をご提示いたしますので、ご審議のほど、よろしく願いいたします。



挨拶する阪本会長

来賓挨拶 茨城県商工労働部次長

小林 彰 氏

第13回定時総会が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。日頃、県内産業の振興と中小企業の技術力向上に貢献され、昨年度は中小企業ものづくり試作開発補助金の査定でのご尽力もありました。厚く御礼申し上げます。

景気は持ち直しの兆しはあるものの依然として厳しい状況にあり、景気雇用対策を県政の最重要施策としています。具体的には、緊急経済対策融資をこれまでの2倍の800億円に増額して5,200人以上の雇用を創出しようというものです。また、成長が期待される①次世代自動車産業 ②環境新エネルギー ③健康医療機器 ④食品という4つの分野への進出を図るため産官学で構成する協議会を6/28に発足させる予定です。首都圏3番目となる茨城空港が3/11に開港しました。新たな定期便の開設、茨城の知名度向上等、観光をはじめとする関連産業の振興のための施策に、県庁一丸となって取り組んでいます。

技術士会におかれましては、関連機関との連携によって一層大きな力を発揮され、益々のご発展を祈念します。



挨拶される小林氏

総 会 報 告

茨城県技術士会第13回定時総会が、茨城県商工労働部次長 小林 彰氏、茨城県工業技術センター長 桑島 英純氏、同副センター長 鴨志田 敏行氏、(財)茨城県中小企業振興公社事務局長 長山 厚氏、同プロジェクトマネージャー 中野 清蔵氏、(株)ひたちなかテクノセンター常務取締役 森 茂氏等、多くの来賓ご臨席のもと、市毛理事の司会により開催された。本田副会長から会員総数168名に対して、総会参加者118名(出席者73名、委任者45名)で総会が成立したことが報告され、保坂副会長を議長に選出して審議が行われた。

【議事1】平成21年度事業経過報告

阪本会長から、事業経過報告がされ承認された。内容は、①定時総会・講演会の開催、②普及及び啓発活動、技術支援事業の拡充、中小企業活性化支援センターの設立、③基盤拡充整備、④各プロジェクトの活動報告等であった。

【議事2】平成21年度決算報告

手島理事より決算報告が、宇梶、森両監事の監査結果が報告され、承認された。

【議事3】平成22年度理事、監事の改選

石田選挙管理委員長より、理事20名、監事2名の推薦者名簿が提出され承認された。

【議事4】新役員の紹介

承認された理事の互選により、下記の新役員が選任された。

【改選された新役員・理事】(敬称略)

会長：本田 永信

副会長：保坂 義男、市毛 修、岸 敦夫

理事：石田 正浩、沖津 修、菊池 松人、古賀 勇二、
小林 守、坂本 和雄、阪本 三郎、鈴木 勝利、
高橋 正衛、丹 左京、手島 久、野口 芳樹、
頗羅墮 彰、日熊 幸男、松本 宏、緑川 義教

監事：宇梶 次男、森 秀一

顧問：林 洋、永田 一良、矢田 恒二、風間 雍

総会に引き続き講演会が行われた。茨城県からの情報を提供していただくテーマ、技術士の活躍に関係するテーマ、教養に関するテーマの3講演が行われた。

【議事5】平成22年度事業計画

本田新会長より、平成22年度の事業計画案として、①基本方針、②予定事業、③技術支援事業、④茨城県技術士会の基盤拡充強化、⑤各プロジェクトの活動計画が説明され、承認された。

【議事6】平成22年度予算

本田新会長より、平成22年度の予算案が説明され、承認された。

【議事7】感謝状の贈呈

今回退任された理事のうち、茨城県技術士会の発展に功績のあった内野 興一氏、荻原 寛氏、鈴木 信之氏、玉津 寿之氏に対して、阪本前会長より感謝状と記念品の贈呈が行われた。

何れの議事も原案通り満場一致で承認され、無事閉会した。



熱心な討議がなされた第13回総会

講演 1 「茨城県の資源と企業・地域の活性化について」

茨城県中小企業振興公社 プロジェクトマネージャー 中野 清蔵 氏

茨城県は圧倒的に中小企業数が多く、従業員数に占める割合も全国平均を上回り85%を超えている。地域ブランド力や観光客宿泊率など県を越えた産業の戦いに弱い茨城の素顔も紹介された。

一昨年のリーマンショックのあとの景気の落ち込みは深刻で、特に県南地方の中小企業の受注減少は際立っており回復も遅れている。

特定の大企業の下請けで部品製造の設備を入れて安く仕事をこなして元を取るのが従来のビジネスモデルであったが、これからは基盤技術の得意な仕事を請負い、顧客に付加価値を提案するビジネスモデルが期待される。

中小企業の活性化と各種支援策について、新事業・新技術の創出及び経営改善支援事業など茨城県内の具体的な活動事例を紹介された。



講演される中野氏

(次ページに続く)

(前ページより続く)

- ① コーディネーター・総括エキスパートなど県の支援事業
- ② 地域力連携拠点事業(地域資源・農商工連携)など国の支援事業
- ③ ITを使った販路拡販・工場合理化を推進している県内中小企業

プロジェクトを起こすには、県の予算は1件あたりの金額が小さく限られており、県内最適化だけでなく県を越えたグローバルな展開も必要である。そのためには連携が必要であり、予算の取り方は難しいが規模の大きい経済産業省など国の補助金等を獲得し有効に使うことも必要になる。

こうした活動において、中小企業と付き合い積極的に仲間を増やし、連携する技術士の役割が期待される。

講演 2 「デジタル時代のアナログ回路」

技術士（電気電子部門） 岡山 努 氏

情報化時代の中でデジタル万能と思われがちだが、実はデジタルだけでは社会に有用な技術とはなり得ない。今回の岡山氏の講演は、アナログ回路の重要性を、示唆に富む方法で示した点で画期的な内容であった。

電源回路、精密アナログ回路、高速アナログ回路、通信回路、アクチュエータ等の種類毎に設計のポイントを示されると共に、ご自分の専門分野である高速アナログ回路については具体的な回路を説明いただいた。

更に、アナログ回路技術者としての長い経験から、この世界は精緻で躍動感に溢れており、技術者の意欲を十分に満足させる世界であると話されたが、アナログ回路の設計はデジタル回路に比べて難しく、回路設計者の育成が大きな課題であると述べられた。岡山氏はこの解決の為に、数々の入門者や解説書を出版されるとともに自らブログを立ち上げ努力を継続されている。

今回の講演を通じて、工学の目的である自然界の制御の為にアナログ回路が不可欠な技術である事、デジタル回路に比べて裾野が広く、技術難度が高い事、この回路の良し悪しがシステムの性能を決めてしまう事、そして技術者として大成するには何が必要かを学ばせていただいた。



講演される岡山氏

講演 3 「良い会社をつくらうシステム」

(株) マネジメント システム 代表取締役 嶋原 育子 氏

最近、IT 業界で注目されている「クラウドコンピューティング」は、SaaS/PaaS/IaaS の3種類からの構成で、それぞれ、アプリケーション/プラットフォーム/インフラのレイヤーから成っている。SaaSは、ソフト部品を並べるだけで自社用システムが簡単に構築することができ、今までの開発に比べると1/3～1/5の時間で自社システムの構築が可能となる。PaaSにおいても、開発時間の大幅短縮ができ、中小のソフト開発企業でも容易にシステム開発ができるようになるなど、クラウドコンピューティングについて解り易く説明された。

(株) マネジメント システムは、この PaaS を用いて「良い会社をつくらうシステム」を開発した。中小企業向けの基盤システムで、大きく4部から構成されている。すなわち、社長の考えを纏める経営支援、それを社員に伝える人財支援、お客様情報を入れた営業基盤、管理会計を基軸にした財務基盤からなり、経営計画で立てた年間目標に対して、毎月どのように実行しているのかを記録に付けることで、会社の現状把握と目標までの対策を考えることができる。

今後の開発課題として、どのようにシステムの幹を考えシステムの中に組み込むか、またライセンス料金設定の基準や販売方法をどうするか等があり、薄利多売だけに創意工夫が必要となる。

対象とするユーザーは、数十人以下の中小企業に絞り、できるだけコストをかけず、安価に提供できるよう今夏にも実用化を目指して準備が進められている。しかし、一人で完成するにはかなり難関で、また、販売方法についても多くの賛同者を開拓していく必要がある。講演後も突っ込んだ質疑応答となり、技術士の支援が期待される。



講演される嶋原氏

交流会

総会、講演会に引き続き、恒例の交流会が場所をレストラン「遊々」に移して開催された。

丹理事の元気いっぱいの司会により賑やかに進められた。本田新会長の挨拶に引き続き、(株)ひたちなかテクノセンター 森常務取締役の乾杯の後、ご来賓の方々からの茨城県技術士会に対する強い期待や、新入会員からの将来への希望、熱い思いなどが語られ、最後に新たに入会された佐藤氏の一本締めで、盛会裏に終了した。



盛会の交流会

— 活躍する技術士 — ～第一線で活躍される技術士にお聞きします～

今回は 石田 正浩さん（情報工学部門）にお聞きしました。

1. 経歴の紹介

大学は計測工学を出ました。計測器の専門工場に勤務し、制御システム、医療システムなど多くの計測システムの開発、システム作りをやってきました。



石田さん近影

ちょうど昭和 50 年ごろ、マイコンが始めたころで制御システムを始め、あらゆる計測器にマイコンが使われるようになりました。その中でソフトの開発を一貫してやってきました。

製品に搭載するソフト、オペレーティングシステム、開発ツールなどあらゆるソフトを手がけました。したがって私の専門事項は組み込みソフト開発、制御システム、ソフトウェアエンジニアリング、になります。その経験を生かして技術士（情報工学部門）を取得することができました。

2. 技術士事務所を開設してからの活動は？

定年と同時に自宅を拠点に技術士事務所を開設しました。その後仕事の中を広げるために、経済産業省推進資格である IT コーディネータの資格を取得しました。広島の制御機器メーカーの技術指導を 1 回/月で行ったり、IT コーディネータ組織で受託した自治体の情報システム投資の妥当性評価、特許や企業評価・企業間マッチング、高専のインターンシ

ップ指導などがあります。日本技術士会の登録グループにも 3 つほど属しており、技術士翻訳センターでは本年 5 月に丸善から共同翻訳で「太陽電池の物理」を出版しました。

3. 信条、今後の抱負などをお聞かせください

昨年から今年にかけて行った小学校の理科授業支援で、最後の日に子供たちから予想もしない色紙のプレゼントがあり、非常に感激しました。今年度も同じ小学校から指名で依頼が来て受けることにしました。顧客に喜んでいただくという仕事の原点として、心に刻んでおきたいと思います。

生涯技術士として、技術士としての仕事の中をもっともっと広げたいと考えています。ソフト、特に組み込みソフトは日本の強みとしてますます伸ばしていかなくてはならず、これに少しでも貢献できればと思います。茨城県技術士会の中小企業活性化支援センターの活動を通して技術士の仕事が増えることを期待しています。

4. どんな趣味をお持ちですか？

あまり趣味らしい趣味は持ち合わせていませんが、インターネット、スポーツジムでの水泳、マシニングジムトレーニング、妻と時々行く山登りと温泉ぐらいです。

連絡先：

〒312-0055 ひたちなか市大成町 3 9 - 2

石田技術士事務所

Tel/Fax : 080-3249-0915/029-270-2566

E-Mail : ishida_pe@rice.ocn.ne.jp

新入会員紹介 (申し込み順)

氏名	部門	勤務先(所属)	住所	Tel/Fax
伊藤 甫	原子力・放射線			
小澤 博	機械			
佐藤 剛	機械			
阿南 俊明	建設			

合格者歓迎研修会・祝賀会を開催

茨城県技術士会では初めての試みとして、2010年5月15日(土)にワークプラザ勝田にて、平成21年度技術士第二次試験の県内合格者を対象にした「平成21年度 技術士第二次試験合格者研修会・祝賀会」を開催し、新合格者6名と会員15名が参加した。

研修会では、本田副会長及び各プロジェクトリーダーによる茨城県技術士会の活動内容説明、手島理事による講演「日常の疑問」が行われ、Twitterでのつぶやきも紹介された。祝賀会では新合格者全員の自己紹介や、技術士会に関する質問・応答等、和やか雰囲気での難関を突破されたお祝いとともに、茨城県技術士会への入会をお誘いした。

次年度からはより多くの合格者が参加されることを期待したい。



研修会で講演する手島氏

第18回会員親善ゴルフ大会が好天下で開催

恒例の茨城県技術士会親善ゴルフ大会が2010年5月14日(金)にグランドスラムカントリークラブで開催されました。

朝から、雉や鶯など野鳥の鳴き声が聞こえ、時にはコース内を雉も走る好天に恵まれ、午後は多少風が出てきましたが、楽しいゴルフ日和でした。優勝で阪本会長杯を手にしたのは三井宣夫さん、準優勝はベストグロス賞を獲得した幹事の日熊幸男さんでした。優勝以下、参加者7名全員、季節の果物などの賞品を手を意気揚々と帰宅しました。

今回は、11月5日(金)に今回と同じコースで三井宣夫さんと本田永信さんの幹事で行われます。

尚、本会が阪本会長から本田新会長に交替したため、阪本会長杯の取り切り戦(優勝経験者による)と新会長杯の両方を行います。ご期待ください。



スタートを前に

編集後記

- ◆ 平成10年4月24日の設立総会開催以来、12年間会長として会を育ててきた阪本会長が、この総会で本田新会長に引き継ぎました。
- ◆ 世界経済の変動、日本の本格的2大政党時代、日本技術士会の公益法人体制へなど、新たな時代への対応が期待されます。
- ◆ 奇しくも、新体制の発足は、鳩山首相から菅新首相への交替が決まった次の日の6月5日でもありました。
- ◆ 本会が新たな体制でスタートし、編集委員会も一部の変更があり、内野、玉津両氏が引退し、新たに古賀が参画することになりました。気持ちも新たに会の情報などをお伝えしていきます。ご支援をお願いします。(Ms)

連絡先：広報委員会(委員長)松本 宏 Tel/Fax: 0294-37-5219 E-mail: matsumoto_pe@net1.jway.ne.jp
石田正浩、荻原 覚、岸 敦夫、古賀勇二、高橋 正衛、野口 芳樹、森 秀一